

年 組 名前：

勝沼中生徒袋かけ体験

ブドウ栽培理解深める

甲州・勝沼中の2年生は11、12の両日、甲州市勝沼町地区でブドウの農作業体験をした。農家らの指導を受けて袋かけや傘かけなどを行い、地場産業への理解を深めた。

約60人が同地区の農家約20軒のブドウ畑で作業を体験。JAフルーツ山梨が出資する「あくりフルーツ」(同市)が管理する勝沼町休息の畑では、栽培を行う同社のスタッフや地域おこし協力隊員の助言を受けながら、生徒7人がシャインマスカ

ットに袋かけをした。参加した矢沢一樹さんは「実際に体験したことで大変さを実感した。暑い中でも毎日、作業をしている農家さんは地域の誇りだと思つ」と話した。

同校などによると、市の基幹産業であるブドウ栽培への理解を深めるため、50年以上前からデラウェアのシベリン処理体験を実施。しかし、デラウェア農家の減少に伴い2024年度から体験作業の内容を拡大している。

〈山本就巳〉



袋かけをする勝沼中の生徒(左)
＝甲州市勝沼町休息



QRコードから動画を見られます

(2026年6月19日付 山梨日日新聞22面)

問1

甲州・勝沼中の2年生は、農家らの指導を受けて、どのような農作業体験をしましたか。

.....

問2

同校が、農作業体験を行う目的を教えてください。

.....

問3

あなたなら、どのような農作業の体験を試みたいですか。

.....